

公民館報

No. 93
(2020 / 9 / 1)

くしもと

編集・発行：教育課

串本町串本2427番地

TEL 0735-62-0006 / FAX 0735-62-6023



表紙文化財紹介

いせみちみちしるべ
熊野古道大辺路
逢坂峠「いせみち」道標
町指定文化財 記念物（史跡）
平成21年3月30日指定

今月号の表紙は「熊野古道大辺路いせみち道標」です。

石塔には「いせみち」「左いせみち 右やまみち」「文久二
壬戌年 施主 若山 為 森藤三郎」と刻まれています。

明治36年以降の県道改修で不要となり、貝岡地区の住民が
保管していましたが、傾斜地の改良工事の際、元の設置場所に
近い現在の位置に設置されました。

大辺路で唯一の「いせみち」と刻まれた道標であり、伊勢参り
との関連性がうかがえる貴重な交通遺跡となっています。

町民総合展開催

出品作品募集

今年も串本町教育委員会主催の町民総合展を開催します。

第16回目となるこの総合展は、串本町の文化・芸術の祭典であり、毎年様々なジャンルの工夫をこらした作品が多く出品され、鑑賞者を楽しませてくれています。

応募要項については次のとおりです。多くの出品とご協力をよろしくお願いいたします。

趣旨

串本町民の美術に関する愛好心と鑑賞力を啓発し、美術作品の創作意欲を盛んにするとともに串本町の文化向上、発展に資する。



昨年度の町民総合展の様子

日程

11月6日(金)～8日(日)
午前9時～午後4時30分

応募資格

- ①串本町に住所または本籍を置く人。
- ②串本町に勤務する人、または在学する人。
- ③串本町内のグループに所属する人。

会場及び部門

○串本町立体育館

生花、盆栽、工芸、俳画、俳句短冊、手芸、書、各公民館出展コーナーほか

○串本町文化センター

絵画、写真、特別展示(未定)

出品手続

- ①所定の出品申込書に記入の上、9月30日(水)午後5時までに串本町教育委員会教育課(串本町文化センターまたは古座分庁舎2階教育課)に申し込んでください。
- ②作品は原則として他の展覧会に出品したことのない自作品に限ります。

規格

- ①書は表装共高さ2.1メートル以内、幅は全紙までとします。
- ②絵画は100号以内とし、額装とします。(申込書に号数記入)
- ③立体作品(生花除く)は重量50キログラム以下とし、間口、奥行き共1メートル以内とします。
- ④生花は、間口、奥行き共1メートル以内とします。
- ⑤写真は、パネル張平面作品または額装とし、単写真は四つ切りから全紙まで、組写真は縦横1メートル以内とします。
- ⑥パッチワークは、1メートル以内とします。なお、大きい作品は折り畳んで展示します。
- ⑦会場汚損等他の展示作品の妨げとなる作品は除外します。
- ⑧その他主催者において不相当と認めるものは受け付けません。

点数

- ①原則1人2点以内(但し、部門別とし、俳句部門は1点とします)
- ②なお、展示スペースの都合により、1人当たりの作品点数が増減する場合がありますので、ご了承ください。



搬入

○11月5日(木) 午後1時から午後7時までの間に会場に搬入してください。

※原則として時間外の受付は行いません。当日都合の悪い場合は、前日に教育課(串本町文化センター内)までご持参ください。詳しくは、教育課にご相談ください。

搬出

11月8日(日) 午後4時30分から会場より搬出してください。

その他

- ①搬入作業は慎重に取り扱いますが、不慮の損傷についてはその責を負いません。
- ②陳列等については、主催者及び運営委員に一任してください。
- ③出品申込状況により、展示場所を変更する場合があります。
- ④規定の期日に搬出されない作品は、処分することもあります。
- ⑤搬入・搬出の際は、マスクの着用やソーシャルディスタンスを保つなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じてください。
- ⑥その他、運営上疑義が生じた場合は、運営委員会において協議の上決定します。

「紡ぐプロジェクト」

成就寺障壁画搬出

成就寺が所有する国指定重要文化財の方丈障壁画「紙本墨画林和靖図」の一部が、文化庁、宮内庁、読売新聞社による「紡ぐプロジェクト」の助成を受け、修繕のため7月21日(火)午前10時から搬出作業が行われました。

壁から取り外された障壁画は京都国立博物館内の文化財保存修理所に搬送され、専門の業者によって修理が行われます。

大崎住職は、「傷みが進んでおり心配だったが、修繕して後世に残すことができるのでありがたい。」と話されました。

なお、今回の搬送作業の様子は、「紡ぐプロジェクト」のホームページや公式Twitterなどで紹介されています。



壁から取り外された障壁画

須江獅子舞

新たに町文化財に指定

町文化財保護審議会は、7月29日に開かれた、同審議会の審議・議決を経て、須江獅子舞を町文化財に指定するよう答申しました。

この結果、須江獅子舞は新たに町無形民俗文化財に指定されることになりました。これで、町内の無形民俗文化財は25件になります。

町内の獅子舞は、13件が文化財に指定されていましたが、須江獅子舞が指定されていなかったことに気がついた須江区长からの申請があり、今回指定されることになりました。

須江地区の秋の例祭は、元々は10月9日に営まれていましたが、現在は10月の休日にあわせて行われています。古座の獅子舞がルーツと伝わっており、演目は、弊の舞、神宮の舞、神明讚、乱獅子、花掛かり、寝獅子、剣の舞、扇の手、玉獅子です。玉獅子は他の地域では途絶えていることが多い演目ですが、今も継承されています。天狗は大人が演じる大天狗、子どもが演じる小天狗があり、小天狗は二人一緒に演技をします。他の地域ではあまり見られない須江獅子舞の特色となっています。



町内の獅子舞について

江戸時代に伊勢から古座(現在の古座・古座川あたり)に太神楽が伝わり、それが串本や大島に広まり、当時の潮岬会合(広域鯉魚組織)の影響で周辺の地域へと広まったのが紀伊半島で伝承されている獅子舞だと言われており、各地区には、古座の獅子舞(現在の古座、古田、高池、西向の獅子舞)の4地区のいずれから習ったという言い伝えが残っています。

伊勢神楽獅子や古座獅子を継承しながらも、それぞれの地区で独自の变化を遂げてきた獅子舞は、地区住民や保存団体等の努力によって後世へと継承されています。

令和2年度 町民大運動会中止について

毎年秋のイベントとして、町民の皆さまにご参加いただいている町民大運動会ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度の開催は中止することになりました。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

太平洋戦争終戦75年 平和の歴史展

8月15日に終戦の日を迎え、太平洋戦争が終わって75年目の年になりました。

日本は、戦争による唯一の被爆国です。

昭和20年8月6日に広島に、8月9日には長崎に原子爆弾が投下されました。

戦争は多くの人の命と日常を奪いました。町内においても、空襲被害等によって多数の犠牲者が出ています。

戦争を体験された方の高齢化が進み、戦争を知らない世代が増え、悲惨な体験が風化していくことが懸念されています。

町教育委員会では「第五福竜丸建造の地平和の歴史実行委員会」を立ち上げ、戦争の愚かさや平和の尊さについて考えるきっかけとして、平和の歴史展を開催し、パネル展示や海軍無線送信所跡の一般公開を行いました。

当実行委員会は、今後も、戦争の悲惨さや平和の大切さを語り継ぐための取り組みを行っていきます。



パネル展示

8月3日から16日までの期間、串本町文化センター1・2階ホワイエにて、パネル展示を行いました。

原水爆禁止協議会が製作する「広島・長崎被爆展示組写真」を中心に、被災当時の写真など33枚を展示しました。

期間中、串本中学校の生徒が平和学習として訪れたり、同センターの利用者が自由に鑑賞されたりしていました。写真展示を通して核兵器や戦争の悲惨さについて考えるきっかけになったと思います。



パネル展示の様子

海軍無線送信所跡 特別公開

8月14日には、「海軍無線送信所」の特別公開を行いました。

串本の植松地区に残るこの施設は、旧海軍が無線通信を行うための送信所でした。受信所は出雲の権現地区に造られていました。基地は地下にあり、爆弾の投下にも耐えられる頑丈な造りになっており、現在も構造物がきれいに残っています。

1日で66名が来られ、ガイドの解説を受けながらゆつくりと見学され、「町内にこんな施設が残っている事を知らなかった」と話されています。



町内に残る戦争遺跡

串本町は、古くから海防の要衝とされてきました。太平洋戦争末期には、本土決戦に備え、大阪を防衛する前線基地として位置づけられ、要塞化が進みました。また、基地の街であるが故に空襲や艦砲射撃の対象となり、多大な被害を受けました。空襲から身を守るため、すべての地域に防空壕が掘られ、基地周辺には大規模な地下壕が建設されました。

戦後には、そのほとんどが取り壊されましたが、町内にはまだいくつかの軍事施設跡が残っています。

町教育委員会では、これらの軍事施設跡や地下壕、空襲被害等の場所を戦争遺跡とし、戦争を語り継ぐための史料とするために現在、町内16ヶ所に標柱を設置しています。

次のページではそのうちの一部を紹介させていただきます。



B29 墜落現場



昭和20年6月1日の昼頃、米軍の爆撃機B29が接触事故を起こし、一機は潮岬の谷に、もう一機は上浦の海上に墜落し、併せて乗員22名中20名が死亡した。落下時に脱出した2名の乗員は、一人は上浦に、一人は須江に降り、二人とも捕らえられた。



海軍軍需部横穴壕



海軍大阪警備府軍需部串本支庫の施設があった。

砲弾、魚雷などの兵器から軍艦で使う燃料、食料、被服までの一切の軍需物資を集め保管し、軍艦などに補給を行っていた。

現存する横穴壕は爆薬を保管するために頑丈な造りとなっている。

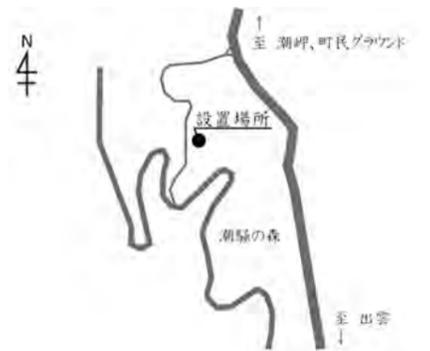


潮騒の森 防空壕



出雲の権現地区には海軍の通信所があり、しばしば空襲目標とされた。昭和19年から陸軍特設警備隊によって、本土決戦に備えて全住民が避難できるように、大規模な防空壕が建設された。

崩落の危険もあるため現在は入口を封鎖している。

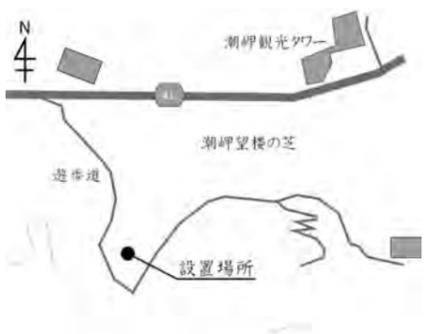


海軍望楼跡



日清戦争が起きた明治27年に建設された串本町内最初の軍事施設で、望楼の芝の名称の由来となっている。日清戦争から太平洋戦争にかけて運用され、敵国の艦船を監視するための施設だった。

壁には機銃掃射を受けた痕が見られる。



エルトゥールル号遭難から 百三十周年

1890年9月16日、600余名を乗せたトルコ軍艦エルトゥールル号は、明治天皇への謁見を終えて帰国の途についていました。やっと母国に帰れると喜んでた乗員達ですが、運悪く熊野灘を航行中に台風と遭遇し、強い風と波のため、樫野沖の船甲羅という岩礁に衝突し、船は大破して乗員は海に投げ出されました。

異変に気づいた大島村の住民は、激しい風雨の中、懸命に救助活動を行い、69名の命を救うことができました。しかし、500余名の異国の人人々は、この地で還らぬ人となってしまいました。

それから130年、この出来事を契機として日本とトルコの友好関係が続き、イラン・イラク戦争のときには、トルコの飛行機が、危険を顧みず日本人の救出活動を支援してくれました。

串本町では、「日本トルコ友好の町」を掲げ、慰霊式典の開催や青年の交流活動、映画「海難1890」の製作などを通して、親交の度を深めています。

そんな中、趣味の短歌活動を通してエルトゥールル号遭難に関わる短歌を目にした中湊在住の清水登さんから、色々とお話しを伺わせていただくことができました。

『舅の建てしトルコ軍艦遭難碑
石屋継がざる夫と訪い來ぬ』

作者は、和歌山市在住の久保みどりさんという方で、短歌をみてわかるように、大島とはとても縁のある方です。

久保さんの義父久保暢朗さんは、昭和12年6月3日に建立されたトルコ共和国による慰霊碑を造られた方とのことです。当時は、屋号を「石百」として石材業を営んでおり、トルコ政府の要請によって慰霊碑製作に従事して、見事にその大役を果たしました。完成除幕式では、その功績が認められて、トルコ共和国より表彰のメダルを授けられ、今でも大切に保存されているそうです。

樫野崎には、明治24年に和歌山県が建てた慰霊碑もあり、二つの慰霊碑周辺は、大島小学校の児童や地域の方々が、整備・清掃活動が続けられています。130年という長い時間が経過しても、亡くなった異国の将兵のために祈りを捧げる気持ちは、脈々と受け継がれているのです。



昭和12年建立の遭難者慰霊碑



授与されたメダル

一つの短歌に出合ったお話から、様々な分野の方々が、エルトゥールル号の遭難から今日までの出来事に関心を持ち、串本町への想いを深めていることがわかりました。130年という節目の年に当たり、皆様方も大島に行かれることがありましたら、慰霊碑を前に新たな気持ちで祈りを捧げていただきたいと思います。

日本最古の石造灯台 樫野崎灯台

樫野崎灯台は「日本の灯台の父」と呼ばれるイギリス人技師のリチャード・ヘンリー・ブランドンが設計し、明治3年に建設された日本最古の石造灯台です。今年の7月で点灯を開始してから150年になりました。

エルトゥールル号の遭難は初点灯から約20年後の午後9時頃の出来事でした。海に投げ出された乗員は、樫野崎灯台の灯りをたよりに陸地を目指し、崖をよじ登りました。灯台官舎の扉を叩き、灯台職員に助けを求めたことでエルトゥールル号の遭難が判明し、その後の大島の人々による救助活動が行われるきっかけとなりました。この灯台がなければ大島の人々による救助活動もなかったと考えられ、重要な役割を果たした場所となっています。

当時を知るこの灯台は、改築等により、少し建物の姿が変わっていますが、今もなお現役の灯台として沖行く船を照らし続けています。



串本青少年センター

「4月から串本青少年センターでお世話になっています。」

「あ、潮岬にある所やね。」

「それは潮岬青少年の家で青少年センターとは別です。今まで補導センターって呼んでいた所です。」

こんな会話が何度繰り返されたことでしょうか。今年度より「串本青少年センター」センター長として務めさせていただきます。

昭和37年4月に周参見・串本・古座・古座川の4町を管轄する「黒潮少年補導協会」が発足しました。その後、町合併に伴う管轄や改称等の幾度かの変遷を経て、平成29年4月串本・古座川の2町運営協議会の運営による現在の「串本青少年センター」として再出発しました。現在の体制になってからはまだ4年目ですが、「黒潮少年補導協会」の発足から数えると実に58年目を迎える大変歴史のある組織であることはいうまでもありません。

当青少年センターでは、次のような活動を行っています。

(1) 補導活動

(主)に広報車による巡回補導
・昨年度の巡回回数は実に523回を数えました。この回数には驚くばかりです。児童生徒にはもちろんのこと、地域の方々の目にもとまります。
「抑止力」抜群です。



広報車

(2) 相談活動

子ども達のことや気になること等ありましたら、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。

(3) 環境浄化活動

・駐輪場の整理整頓・清掃活動や無人駅の点検活動を行っています。

(4) 広報啓発活動

・センター便り「くろしお」やチラシの配布等を行っています。

(5) 関係機関(団体)との連携

・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、顔を合わせる機会が少なくなっていますが、初めて耳にする協議会がたくさんあることに驚いています。

(6) 研修活動

・これまた、新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止になった研修がありますが、徐々に再開されつつあります。

最後に、青少年を取り巻く状況はめまぐるしく変化しています。当管内においては、ここ数年、補導件数は大きく減少の傾向にあり、大変落ち着いた状況になっています。しかし、子ども達の世界に急速に広がっている「スマートフォンやインターネットによるトラブル」ほか地域の実態や課題を明らかにし、関係機関との連携を密にしたニーズに合った活動を行っていききたいと思います。

「独り言」

毎日の巡回のコースとして串本駅前駐輪場に立ち寄り、自転車の整理やゴミ拾いを行っているのですが、最近になり缶ビールや缶酎ハイ等のアルコーン類の空き缶が目立つてきました。それに加え、たばこの吸い殻もたくさん落ちています。



ここは、主に高校生が利用する場所です。大人が公共の場で見せる行動が、子ども達のマナーやモラル感を左右します。率先して手本を示すことのできる大人でありたいものです。



山本誠士

第20回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会

大会日時 令和3年2月21日(日) 午前11時スタート
場 所 開始式 紀三井寺公園陸上競技場
コース スタート 紀三井寺公園陸上競技場
ゴール 和歌山県庁前
(10区間：合計21.1km)

主 催 和歌山県、和歌山県教育委員会、社団法人和歌山県体育協会
対 象 小学校5・6年生

中学校1・2・3年生

チーム編成 小学生男女各2名、中学生男女各3名

申込締切 令和2年9月4日(金)

お問合せ先 串本町教育委員会教育課社会教育グループ
TEL.0735-62-0006

※新型コロナウイルス感染症を考慮し、大会が中止となる可能性があります。また感染症対策として、オープンチームは出場できない場合があります。

参加者
募集!



教育課よりお知らせ

図書館の再開について

図書館は8月より移転作業のため休館しておりますが、移転作業は予定通り順調に進んでおります。10月1日(木)には移転先の保健福祉センターにて再開することができる予定ですので、ご迷惑をおかけしておりますが、もうしばらくお待ちください。

【お問合せ先】

串本町教育委員会教育課社会教育グループ
TEL.0735-62-0006



文化センターにサーマルカメラを導入しました

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、文化センター1階の階段近くにサーマルカメラ(体温測定端末)を設置しました。このサーマルカメラは画面に顔を映すと瞬時に体温を測定し、更にマスク着用の有無を判断してくれる優れものです。施設利用の際は、体温測定・マスク着用にご協力よろしくお願いします。また、37.5℃以上の熱がある場合には、施設の利用を控えていただくようお願いします。

